

聖書の集い（第9回）

2015年2月4日

古本 靖久

1、聖歌 561 番 「サントサントサント」

2、お祈り

3、聖書 「エフェソの信徒への手紙 4章 25節～32節」（新約聖書 357 ページ）

4、今日の内容

「正直が一番」

今回は「素直に自分を相手に示す」、簡単にいうと「正直になる」ということについて学びます。わたしたちは他者との関係の中で生きています。そして子どもたちにとっても、今は親との関係が中心ですが、他者との関係が大切になっていきます。その時に重要なのが、コミュニケーションをきちんと取るということです。

聖書を見ていても、直接コミュニケーションを取ることが人間関係にとって、特に他者との問題を解決する時にいかに重要か、多く書かれています。また最近のニュースにも、正しく相手とコミュニケーションを取ることができないために、悲しい事件が引き起こされたケースも多々見られます。

① 親自身が率直なコミュニケーションを心がける

子どもたちがきちんとコミュニケーションを取るためにはどうしたらよいのでしょうか。まずは、親自身が子どもに、正しく物事を伝えるということです。

子どもたちは、時々急に「良い子」になることがあります。いつもだったら言われないと出来ない後片付けを率先してやったり、テレビを消して勉強を始めたり。何があったのかと思ひ、後で聞いてみると、「だってママ、怖い顔してたんだもん」。

子どもたちに対して、イライラしている時もあるでしょう。でも多くの場合、ただ考え事をしていたり、子どもたちではなく夫に対してイライラしていたり、つまり子どもたちに対してイライラを伝えようとしていないことも多くあるのです。

ではどうして子どもたちは、「ママはきっと自分たちに対して怒っている」と思ったので

しょう。それは日ごろからの、親から子への意志の伝達がうまくいっていなかったからではないでしょうか。何か言いたいことがあっても、表情を変えて「察してよ」と思う。問題を感じても時間が過ぎるのをじっと待つ。そのような態度で接していくと子どもたちは、親の顔色ばかりをうかがうようになるのかもしれない。

② 子どもの恐怖心をなくす

なぜ人は、直接コミュニケーションを取ることを怖がるのでしょうか。それは、「愛してもらえなくなるかもしれない」という思いと、「仕返しされるかもしれない」という恐れがあるからです。でもどうでしょう。例えばあなたが大切にしているガラスのコップを、あなたがいない時に子どもが割ってしまったとします。あなたが帰ってきて割れたコップに気がついたときに、夫が近づいてきて言います。「なあ、叱らないであげて。あの子ども反省しているみたいだし」。

想像してみてください。子どもが直接あなたの元に来て、涙を浮かべながら「ごめんなさい」と言うのと、どちらがうれしいですか。直接言われるのがうれしいならば、「ごめんなさい」と子どもが言ってきたときに、思い切りほめることです。「ちゃんと良く言えたね」、「ママはコップが割れたのは悲しいけれども、あなたがそう言ってくれるのはうれしいわ」。と言って、子どもをぎゅっと抱きしめるのです。

実は人間と神さまの関係も同じなのです。神さまはわたしたちを監視している存在でも、わたしたちに罰を与える方でもありません。神さまはわたしたちのすべてを受け入れて下さいます。わたしたちの足りない所、弱い部分、そして欠点をすべて承知の上で、「それでいいんだよ」と抱きしめてくださるのです。時に間違いを犯すわたしたちを、それでも受け入れてくださる、それが神さまなのです。わたしたちもそのように、子どもたちに接することで、子どもたちは他者とも良い関係がつかれることでしょう。

③ 言葉で表現させる

しかし子どもたちがいつでも、自分を表現できるとは限りません。自分の心に引きこもってしまったり、だんまりを決め込んだり。往々にしてそのような時に、親はイライラしてしまい「時間がないから早く言って」とか、表情や仕草でその子の要求を勝手に想像して決めてしまいがちです。

でもそのような時こそ、じっくりと待ちましょ。子どもが一体何を考えているのか、それは子どもにしか分かりません。それを自分の言葉で、伝えさせましょ。時間がかかってもいい、何度も同じことが繰り返されるかもしれない。でもこの時間が子どもにとって、コミュニケーションを取るとはどういうことか、知るきっかけになるのです。